

高岡教区

教区報

2015

12月号

念仏のこころに生きる生活を



今年も相馬へ「富山米」を届ける 〈支援米報告〉

られる場所で、今
もその子孫の方が

十一月六日から十日にかけて相馬支援米の募集が行われ、富山県産の新米五、三ト

多く住んでおられる、高岡教区と縁の深い土地である。

ンが教区内寺院三十六ヶ寺、門信徒二百三十四名、十四団体より寄せられた。

寄せられた支援米は仏教壮年会会員・門徒推進員・寺族青年会会員の手によって五千口ごとに袋詰めされ、十一月十八日より

この支援米事業は東日本大震災とそれに伴う原発事故で被災した福島県の相馬地域の避難生活中の門信徒及び有縁の方々への

勤修される相馬組寺院の報恩講に合わせて搬送され、相馬組寺院を通じて、全村避難

支援として震災の発生以来、毎年行われ、今年で五回目。相馬地域は約二〇〇年前の

中の飯館村の人たちが暮らす仮設住宅や避難生活中の門信徒の方々に届けられた。

相馬藩時代に飢饉によって人口が半減したため、復興のため

「毎年の贈り物、頭の下がる思いでございます。ありがとうございます」

に富山県の呉西地区、特に

「土地の値上がりや大工不足、家（仮設）から出られない方もいらつしやいます。また、報恩講にも出したいと思っています」

砺波地域から多くの門信徒が真宗僧侶の幹旋

（松山住職・光善寺）

によつて密かに移住し、復興に大いに貢献したと伝え

「沢山のお米と皆様方のあたたかいお心を一緒に届けて頂きました。いつもいつも本当にありがとうございます。もうすぐ五年になるうとしておりますが、当初から変わらないご支援を頂いておりますことに感謝を申し上げますと共にたいへん恐縮しております。皆様のお心を感じながら、一粒一粒大事に味わいながら食べさせて頂きます。（中略）皆さまの支援がどんなにか私達を勇気づけてくれることか、下を向いてばか

仏婦ダーナ募金のご報告

教区仏婦連盟では、今年のダーナ募金の集金を12月7日（月）に行い、625,590円ものご寄付がありました。ありがとうございました。

集まった寄付金は、協議の上、更生保護施設である西本願寺白光荘及び、緊迫するシリア情勢に鑑み、ユニセフのシリア緊急募金に寄付される予定です。

ご協力くださったみなさまに重ねて厚く御礼申し上げます。

合掌



りはいられない…立ち上がらなければと思つています」（佐藤美喜子さん・松川第二仮設）とのメッセージが相馬の皆さんから寄せられている。
高岡教区では引き続き十二月二十五日（金）～二十七日（日）に福島県内の仮設住宅で餅つきを通じた交流会を予定している。（詳細別紙）

日本の戦争展が開かれる

「明治以降の戦争を振り返る」

明治以降の日本の戦争の歴史を振り返り、非戦の誓いを今一度、認識してもらうために、富山県念仏者九条の会（藤井慶輝代表）の「日本の戦争展」が十一月十九〜二十一日に西本願寺高岡会館十二月八〜十日に大谷派富山別院で開催された。（東西の富山・高岡教区及び各新聞社が後援）

この戦争展では、松浦晴芳さん（県歴史教育者協議会副委員長・元教師）と阿部行道さん（富山宗教者平和協議会代表・富山教区荘厳寺住職）らが集めた、富山大空襲や学童疎開のパネル、軍服や焼夷弾など約二百五十点が展示され、多くの方が見学に登場し、当時の日本の仏教教団が天皇信仰を進め、戦争に協力した状況を知る機会となった。期間中、講演や高岡教区教学財団が今年発刊した『百年の歩み』を基にした年表の紹介も行われ、



東西本願寺教団について明治以降の戦争に深く関わっていた事例も報告された。

今も世界で無くない戦争、主催者から述べられた「戦争そのものが悪であるとの視点が大切」との言葉に、私たちが真摯に向

き合っていないかなければ、七十年前の過ちが再び繰り返されていくことになるのでは、と今回の展示が問いかけているように思われた。

親鸞聖人を語る夕べを開催

「会館報恩講前日」

今年も十一月二十五・二十六日の両日、会館報恩講が営まれ、初日の夕方には教化団体合同によるお初夜「親鸞聖人を語る夕べ」が開催され、約九十名が参加された。

この「語る夕べ」は会館が建てられた二年後の一九九四年から催されているもので、その趣旨として「報恩講の意義を考慮したご門徒手作りの企画を盛り込み、会館や寺院にこられることの少ない方々



（特に青壮年層）への参加呼びかけの機縁とする」ことが目指されている。最初に、宗祖讃仰作法による音楽法要が勤められ、西岡教務所長の導師のもと、正信偈が唱えられると、参拝された方々も一緒にお勤めされる姿が多く見られた。

続いて、「親鸞聖人の魅力を語る」というテーマでパネルディスカッションが行われた。今回はこの催しの共催団体である仏教壮年会や仏教婦人会、寺族青年会、門徒推進員からパネリストに出て頂き、教区布教団の立川証副団長がコーディネーターを務め活発に意見が交わされた。

今後もこの「親鸞聖人を語る夕べ」では、伝統的な法座の形態にこだわらない新しい法座のあり方を模索して、社会にある様々なテーマを取り上げていきたいとしている。

また、翌二十六日には、各組からの法中出勤のもと午前・午後と報恩講が、講社連盟の講員の方々とど百五十名の方が参拝されるなか勤められ、高尾憲昭氏（氷見西組専徳寺住職）のご法話を聴聞された。

御同朋の社会をめぐる運動のコーナー

「宗教の使命」とは？

パリの同時多発テロ事件から間もなく一ヶ月が経ちます。その直前に起きたトルコやエジプト、レバノンの事件、そしてこの一月の間にも、マリ、チュニジア、ナイジェリア、アメリカ、イギリス…、次々と連鎖的にテロ事件が起こり、止まる気配が見えません。昨年のテロ事件による犠牲者は世界中で三万二千人を越えています。今年はその上回る事が確実視され、世界中が、悲しみと恐怖、出口の見えない不安に覆われているかのようです。

特に私は、このテロ行為が「宗教」の名の元に行われている事に、大きな問題を感じずにはおれません。多くのイスラム教徒は、彼らを「信者」だとは認めていませんし、私もその事に同意します。しかし一方で、無理解や偏見からイスラム教徒への新たな差別、迫害が生まれ、さらなるテロリズムの温床を拡大させている、という現実があることも理解しなくてはならないと思います。

まるで映画の場面としか思えない様な銃撃戦の映像。合間に聞こえる「アッラーフアクバル！（アッラーは偉大なり）」という叫び声に戦慄を憶えます。この言葉は、本来、礼拝の時に使われる「神様への挨拶」、例えるならば私たち真宗門徒にとつての「南無阿弥陀仏」です。もし仮に、念仏を称えながら銃を乱射する人がいたとするなら、皆さんはどうお感じになるでしょうか？「真宗のみ教えを聞く人がそんなことをする訳がない」と思われるでしょうか？あるいは「戦闘行為とご信心は別なもの」と言われるでしょうか？

『後の世は弥陀の教えに任せつつ 命をやすく君に捧げよ』（明如上人）

この歌は日露戦争の際には、盛んに従軍布教で引用され、さらには一九三七（昭和十二）年に宗派が寺族・門信徒に向けて発行した『仏

教と戦争』（「本願寺計畫課」刊）でも結語で用いられています。

人々に「人を殺すことを正当化」し、「自分の命を権力者に捧げる」という意識を植えつけなくては戦争は出来ません。そうさせたのは、「国家神道」という「宗教」でありましたし、私たちの教団における「戦時教学」でした。

戦後、私たちの教団において、「宗教の使命」を「真の人間性を回復する道を見出すこと」（『教書』一九八〇年）としたのは、かつて「仏法の名において戦争を肯定し、あるいは賛美」することにより、非人間的な行為を当たり前の様に思う国民を作り上げてきたという歴史に対する反省からの事でしょう。また、封建制身分社会を引きずったまま因習による偏見のもと差別を温存・助長し、人権を侵してきた「信心のありよう」を見直していこう、との表明でもあったと受け止めることができます。

今や世界中に存在するテロリズム。彼らを生み出したのは「差別」と「貧困」だと言われます。「戦争」によって「差別」と「貧困」が拡大し、「貧困」と「差別」が新たな「戦争」を生み出しているのです。

『たとひわれ仏を得たらんに、国に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ』（仏説無量寿経・無三悪趣の願）

阿弥陀如来が、地獄（戦争）・餓鬼（飢餓・貧困）・畜生（差別）を、その課題の一番、最初に上げられたのは、人の世の本質を見抜かれた上でのことでありました。

今、私たち一人ひとり、その願いを聞き、「真の人間性を回復する道を見出す」ために何が出来るのか…。そのことが問われているのだと思います。

【高岡教区教区主幹 浜野信宏】

12月		
19	仏のこどものつどい	
21	教学研究室例会 寺青声明サークル	
22	キッズサンガ委員会	
23	長寿苑ビハーラ活動	
25	聖典セミナー(9回目) 東日本大震災教区第17次 支援班(~27・福島)	
28	午後から事務休業 (~7日まで)	12月28日の午 後より、1月7日ま で、教務所事務休業 いたします。
31	除夜会(本山・井波別院・ 福光教堂)	
1月		
1	元旦会(本山) 修正会 (井波別院・福光教堂)	
6	雨晴苑ビハーラ活動	
8	教務所事務開始 寺青役員会	
9		親鸞聖人御正忌報恩講
13	福光教堂・御正忌報恩講(~14)	(~16日・本山)
14	常例法座 事務休日(~16日)	1月14~16日ま で、親鸞聖人御正忌 報恩講のため教務所 事務休業いたします。 (常例法座はござ います)
15		
16		
19	教区コーラス練習日	
20	教区新年会	



12月28日の午
後より、1月7日ま
で、教務所事務休業
いたします。

親鸞聖人御正忌報恩講
(~16日・本山)

1月14~16日ま
で、親鸞聖人御正忌
報恩講のため教務所
事務休業いたします。
(常例法座はござ
います)

ラジオ放送~西本願寺の時間~

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・73.8kHz.
毎週土曜日(本山制作)午前6:15~6:25
第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00~6:10

12/12(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)

「仏教と保育園」

12/13(日): 村上 昂文 氏(高岡教区・西養寺)

12/19(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)

「子どものころを振り返って」

12/26(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)

「あなたはあなたのままでいい」

12/27(日): 立川 証 氏(高岡教区・浄教寺)

1/2(土): 苗村 隆之 氏(京都府・正住寺)

「子どもの目線に立つ」

1/9(土): 大谷 光淳 ご門主
(浄土真宗本願寺派門主・本願寺住職)

「年頭の挨拶」

1/10(日): 仲尾 信博 氏(富山別院輪番)

1/11(土): 苅屋 光影 氏(広島県・光行寺)

「未定」

【西本願寺高岡会館1月の常例法座】

ご講師: 寺 西 良 夫 氏

(高岡教区・明厳寺)

ご講題: 『み教えに生きた人に学ぶ』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょう
か。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. での申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。
一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱(175袋) 8,300円

・大箱(36袋) 2,300円

・1組(10袋) 500円

お申込み先は・・・〒933-0878

高岡市東上関446 高岡教務所内(寺族青年会担当)

Tel.(050)5587-7708(代表) Fax.(0766)21-5152

編集後記

「お寺の衰退は、地方の衰退の写し鏡だ」とネットのニュース
に載っていました。日本創生会議が発表した報告書によれば、
「地方離れ」が今のペースで進めば、二〇四〇年までに日本の地
方自治体の半数近くが消滅すると言われています。

教区も地方に存在するという意味から高岡教区も例外ではあ
りません。近い将来、人がいなくなり無住の寺院だけが残る現状
は今後も多く見込まれることでしょう。僧侶・門徒関わらず、私
たち一人ひとりが、これから何を考えるか、また何を次世代に伝
えていくかを真剣に考えていかないと、「仏教離れ、地方離れ」
だけでなく家や家族等も含めた、「人間離れ」がすぐさまつてく
ることになると思います。